



7月6日に、4年生が総合的な学習の時間の学習で、「誰もが安心して暮らせるまちについて考えよう」というめあてのもと、車椅子体験や高齢者疑似体験、視覚障がいや聴覚障がいのある方の体験をしました。

車椅子体験では、段差の乗り越え方や介助の仕方、自動販売機の利用の仕方などを学びました。子どもたちからは、「運転が難しい」「明日、腕が筋肉痛になりそう」といった声が聞かれ、車椅子を利用する方の大変さを実感していました。

また、高齢者疑似体験では、視界が狭くなるゴーグルや重りを装着して歩きました。「見えにくい」「腰が痛い」などの感想をもち、高齢者の方が感じる不便さについて考えることができました。

さらに、アイマスクを着用し、障害物のある体育館内を歩いたり、階段の上り下りをしたりする体験も行いました。介助役の子どもたちは、「ここから階段やで」「右に曲がるよ」など、相手に分かりやすく優しく声をかける姿が見られました。

今回の体験を通して、一人一人が相手の立場に立って考え、思いやりのある行動について学ぶ貴重な機会となりました。